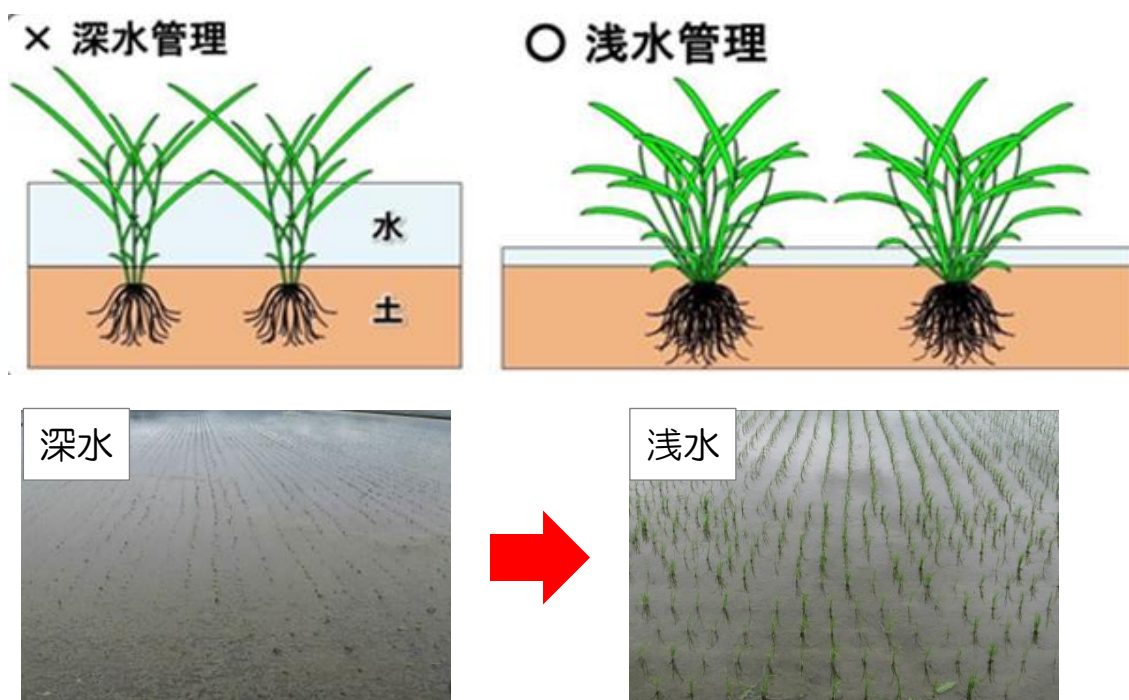


浅水管理で分けつ促進を！

- 4月下旬～5月上旬植えでは、低温や強風により、一部で植え傷みしているほ場が見られます。
- 生育の遅れを回復させるため、**浅水管理（水深3cm程度）**で地温と水温を上昇させ、**分けつを促進**しましょう。



- 深水管理では、稲が徒長し、分けつが抑制されます。
- 除草剤散布から7日以上経過後も深水管理されているほ場では、水位を下げてください。
- 田面が露出しない範囲で湛水し、地温と水温の上昇に努めて分けつを促進しましょう。
- 実際に浅水となっているか、水深スケール等で確認しましょう。

藻の発生について

- 気温の上昇に伴い、藻類が発生しているほ場が多く見られます。
- 藻が多発すると、水温・地温の低下、苗のなぎ倒し、除草剤の拡散の障害となるなど、さまざまな影響があります。
- 自然落水で軽く干す、浅水で管理する**など、藻が発生しにくいほ場管理を心掛けましょう。

藻が発生する要因

- ・藻類の代表的なものとして、「アオミドロ」、「アミミドロ」があります。
- ・水温が上昇(20℃～25℃)すると、藻類の発生が盛んになります。
- ・窒素、りん酸、有機物が多いほ場で発生しやすい傾向があります。



藻が多発したほ場(R8.5月)



藻が白く乾燥した様子

藻への対策

- ・自然落水し、藻が白くなるまで乾燥させると死滅します。(水温30度以上になれば藻は死滅する)
 - ・藻類に効果の高い除草剤(成分名:ジメタメトリン、シメトリン)を使用すると抑制できます。
(セイテン1キロ粒剤、先陣1キロ粒剤 等)
- ※ただし、初期剤、一発処理剤では「発生前～発生始期」の登録がほとんどであり留意する必要があります。